

- 開催期日：令和元年 10 月 24 日（木）
- 開催場所：愛知県自治センター 会議室 E
- 参加人数：104 人

＜活動発表＞

発表者：刈谷市放課後子ども教室

刈谷市教育委員会生涯学習課 統括コーディネーター 信原 玲子 氏

信原 氏からは、刈谷市放課後子ども教室事業の概要に加え、コーディネーターの役割、児童クラブとの連携の二つについての説明がありました。

各校に配置されているコーディネーターの役割として、実施校の管理・運営、児童の安全確保、活動プログラムの企画、保護者への対応、スタッフの配置等の視点から、また、生涯学習課に配置されている統括コーディネーターの役割として、年間開催日の決定、体験教室の企画及び連絡調整、コーディネーター会の開催、スタッフ登録、実施校との連絡調整、諸問題の相談・解決等の視点から説明がありました。コーディネーターの役割について、家庭との間で発生したトラブルにどのように対応をしたかなど、日々の具体的な取組を事例としながらの説明がありました。



児童クラブとの連携については、両事業の連携強化や合同開催に向けた方策を、生涯学習課主催によりワークショップ形式で検討した取組について紹介がありました。

＜講演＞

演題：「地域で子どもの育ちと子育てを支えるために」

講師：日本福祉大学 教授 渡辺 顕一郎 氏

渡辺 氏からは、始めに、放課後の子供の保育や居場所を拡充する政策の背景について、人口減少に伴う労働力確保や共働き世帯の増加による保育需要の増加の側面から説明がありました。また、子育てを取り巻く社会として、「家庭の孤立化」、「先回り育児」、「母性・父性の希薄化」をキーワードに、子育ては親だけでなく、親族間や地域の支えなど皆で行うことが重要としながらも、現在は、それが限界となってきていると説明がありました。



更に、現在の子供が孤立を感じていたり、自己肯定感が低かったりする現状から、学童期に育みたいものは、「有能感」や「役立ち感」であると話されました。

これらの現状から、子育て支援として、「地域で子供を育む」、「地域で子育てを支える」、「現代の子育ての背景をよく理解し、親の気持ちに寄り添う支援者が存在する」ことが大切であると話されました。そして、最後に、発達に課題がある子供とその保護者への支援として、発達障がい定義や子供の「生きづらさ」、合理的配慮等についての説明がありました。

＜参加者の声＞

- 私たちの仕事が、家庭、学校とともに地域で子供を見守る大切な仕事だと思った。
- 子供たちの関わりで少しでも子供を理解し、個性を認めて子供に自信を持たせてあげたいと思った。渡辺先生の講演は具体的事例を掲げてとても勉強になることが多かった。子供が楽しいと思える時間を持つことが大切だと思った。
- 私たちの仕事が家庭、学校とともに地域で子供を見守る大切な仕事だと思った。